

農学部 応用生物科学科(取得可能免許種:中学校・高等学校/理科)

生物・生命の諸現象と、その背後にある原理とメカニズムを、分子から個体、集団、生態系を含む視点で深く学び、さらに、農学や情報科学についても実践的な教育を通じて基礎的な素養を身につける。このようにして身につけた広範な知識を基にして、人類が直面している食料、生命、環境に関わる諸問題を解決する能力の醸成を図る。

こうした教育方針をベースに、同学科では本学の教員養成に対する理念に基づき、主として以下の点に重点をおきながら、高度な資質をもつ教員の養成を目指す。

- (ア) 農学、生命科学、情報科学などの学問領域を学んだ総合力のある教員を育成する。
- (イ) ゲノム、遺伝子機能、微生物、植物、動物、水産生物など多様な領域についての専門知識と応用技術を身につけ、人類が直面している食料、生命、環境に関わる諸問題の解決に貢献し、豊かな創造力をもつ教員を育成する。
- (ウ) 人権を尊重し、教育者としてふさわしい人間力のある人材を育成する。

上記資質をもつ教員を養成するため、同学科においては1年次から4年次まで、農学部4学科共通の専門基礎を学ぶ専門科目・共通群、専門領域の学びを深める専門コア群（基礎系、植物系、微生物系、動物・海洋生物系、農業系、実験・実習系）、さらに他の3学科（農業生産学系、食品栄養学系、食農ビジネス学系）の領域を学ぶ専門総合群を配置している。

上記（ア）に関して、まず自学科の専門科目を中心に学び専門性を深め、さらに2年次より他の3学科の領域を学ぶ専門総合群の授業を履修することで、農学及び生命科学に関する幅広い学問領域について学修するとともに、生命情報学に係る専門総合科目を学修することで理科教員としての総合的な能力を養っていく。

上記（イ）に関して、実験・実習系では、1年次に、化学実験・生物学実験の基礎的な実験から始め、2年次に応用生物科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ、3年次に応用生物科学専門実験Ⅰ・Ⅱへと専門領域の実験・実習を段階的に進んでいくことで、座学と実験・実習を併行して学びながら専門知識と専門技術をつなぎ、理科教員としての資質を身につけていく。また、専門科目・共通群の必修科目「農学基礎演習」では、福井県・三重県の圃場で、実地の水稻栽培において、日本古来の伝統手法と現代的な機械手法による田植え、稲刈り実習を行い、品種、土壌、施肥、病虫害、農薬管理、気象条件などを学ぶとともに、地元農家の方との対話・交流により、理科教員としての生命・生物学的視点を、農業生産の現場での実践を通して養う。

上記（ウ）に関して、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」において、教育者としての資質を養うほか、1年次必修科目「生命倫理」では、ヒトだけでなく食やヒトの生活を支えているさまざまな生命、バイオテクノロジーと環境の問題など、「総合科学」の基礎となる幅広い知識の習得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する。さらにはグループワークを通して課題を見出しディスカッションし、ポスター発表によりプレゼンテーションをすることで、初年次より人権尊重に対する意識を高めて教育者としてふさわしい資質を醸成する。